新潟市教育相談センター
新潟市特別支援教育
サポートセンターだより

もえぎ

第　115　号
令和４年７月19日
新潟市教育相談センター
新潟市特別支援教育サポートセンター
新潟市中央区西大畑町458番地1

不登校の支援を考える

教育相談センター
相談部主任　近藤　美弥子

文部科学省のホームページに「不登校に関する調査研究協力者会議報告書」がアップされました。この報告書に少し気になる分析結果が示されています。

> 「学校に行きづらいと感じ始めた時に相談した相手」について，約４割は「誰にも相談しなかった」と回答，特に低学年で不登校になった児童生徒にその傾向がより強くあらわれていた。
>
> 不登校の要因・背景について，「実態調査」と各学校を対象とした「問題行動等調査」とでは「学業の不振」と「教職員関係をめぐる問題」で結果の乖離があった。このことから，調査方法の違いはあるものの，学校が把握しているよりも多くの児童生徒が「勉強がわからない」や「先生のこと」を不登校の要因として感じていることが明らかになった。
>
> 令和４年６月不登校に関する調査研究協力者会議報告書より抜粋

ここに不登校支援の大きなヒントがあるように思います。

なんとなくいやな気持ちだけれど，よく分からない。家の人もお仕事で忙しそうだからがんばろうと思う。でもお腹が痛くなってくる・・・という身体に出てくる症状。「勉強が分からなくてつらい」「先生が怖い」「友達から無視されて悲しい」「うまくノートが書けなくてイライラする」「発表できなくて恥ずかしい」・・・その場から逃げたくて学校を休んだ。そうしたら，ちょっと気持ちがほっとした。不登校のきっかけとしてよくある話です。

ちょっといやな気持ち，ネガティブ感情は，生来的に危険から身を守るために人間に備わっている防衛の働きで，大切な感情です。このネガティブ感情を封印することなく自分の中で統合していることが心の健康に必要なことです。誰かに寄り添ってもらいながらネガティブな感情を抱えていられるようになることでレジリエンス（トラブルや困難な状況の際に逆境をはねのけて回復すること）も育っていくわけです。言葉にならないネガティブな感情を言葉にして一緒に眺める作業をしてくれる「誰か」が必要です。そうすることでお腹の痛みもなくなるかもしれません。学習で困っていることもキャッチできるかもしれません。

先の報告書では，「不登校児童生徒だけでなくその保護者も大きな不安や困難を抱えていることが明らかになった」とあります。相談センターに毎日かかってくる不登校の相談電話からも子どもの環境因である保護者を支えていく必要性を日々実感します。

そういえば私，子どもから「怖い先生」「厳しい先生」って言われていました・・・。子どものためと思いながらも自分のエゴだったのでは？と今にして思うのです。先生が怖いから学校に行きたくないと思っていた子がきっといただろうなと，過去の自戒を込めて，真摯に相談に臨もうと思う毎日です。

令和４年度「教育相談研究会」のお知らせ

当センターでは，「今，求められている子どもへの支援」を研究主題に，これまでの３年間は，「連携」をキーワードに実践発表を行ってきました。昨年度は，次の３つの分科会でそれぞれテーマを設定し，学校や他機関とどのようにつながり，連携していくとよいかについて具体的な事例を挙げながら提案させていただきました。

【第１分科会　教育相談】
「不登校に向き合う関係者の連携」
【第２分科会　適応指導教室】
「児童生徒理解・教育支援シートを活用した学校連携」
【第３分科会　特別支援教育】
「子どもの気持ちに寄り添った確かな連携」

今年度は，教育相談，適応指導教室の２つの分科会を予定し，学校の先生方をはじめ，関係機関の皆様と，グループワークを通して，よりよい支援の在り方を検討できればと考えております。

つきましては，下段のように開催を予定しておりますので，ぜひ御参加いただき，忌憚のない御意見をお聞かせくださいますようよろしくお願いいたします。

＜開催日時＞　令和４年11月16日（水）
15時00分～16時30分
＜会　　場＞　新潟市教育相談センター
＜各分科会アドバイザー＞
新潟青陵大学大学院　教授　佐藤　亨　様
新潟大学大学院　准教授　田中　恒彦　様

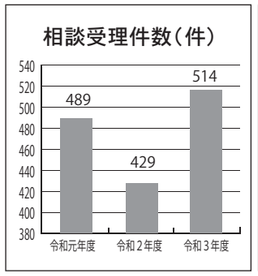
詳細につきましては，９月上旬にメール配信をいたします。添付されています申込書に御記入いただき，お申し込みください。

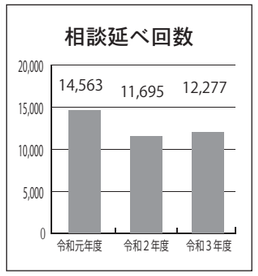
＊なお，新型コロナウイルス感染症にかかわり，直前の中止等変更があり得ることを御承知おきください。

令和３年度　相談集計特集

教育相談センターと各区（北, 江南, 秋葉, 南, 西蒲）教育相談室では，児童生徒及び保護者への相談支援として「来所相談」,「適応指導教室」,「訪問教育相談」を行っています。「夜間『学習・進路相談室』」「いじめSOS電話相談」は教育相談センターのみで行っています。この度，令和３年度の相談状況がまとまりましたのでお伝えします。

1　年間相談受理件数は 514 件と増加

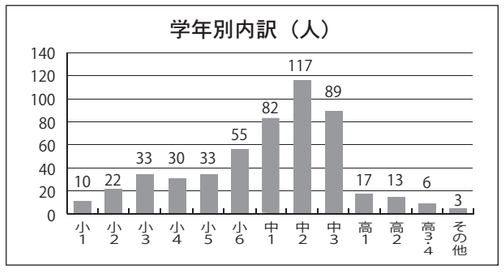




相談受理件数とは,「来所相談」と「訪問教育相談」の受付け件数です。年間で何回相談しても１人の相談者は１件として集計しています。一方，相談延べ回数は，実際に相談した回数総計です。令和２年度はコロナ感染症等の影響で，相談受理件数と延べ回数が減りました。しかし，令和３年度は受理件数が増えました。

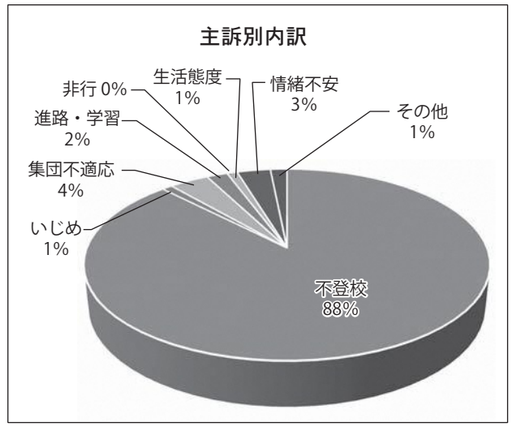
2　学年別では中学生が全体の 57％

相談受理件数を学年別で見ると，中学生は合計で288名となり，全体の57％を占めています。特に中学２年生の相談が117名と多いことが特徴になっています。高校生の相談としては，例年教育相談センターでは少ないのですが，令和３年度は昨年度の1.8倍と増加しました。



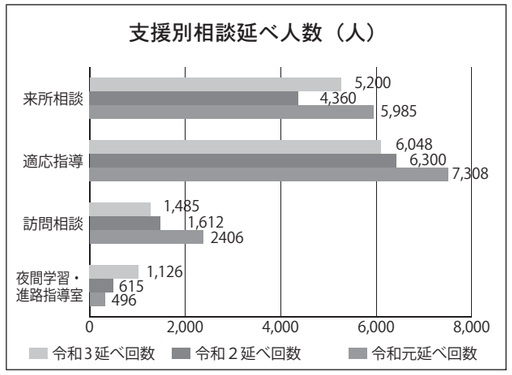
3　主訴別内訳では不登校が 88％

主訴別でみると，「不登校」が圧倒的に多く，受理件数全体の88％（449件）を占めています。また，主訴が不登校ではないものの，情緒不安や集団不適応が原因で不登校状態になっているものを含めると，94.5％（484件）不登校ということになります。教育相談センターの主要な業務の一つが，適応指導であるということが，この数字からお分かりになると思います。主訴は不登校といっても，学校を休んでいることだけが問題なのではなく，その背景には他の悩みがいくつも絡まっていることが多いです。相談者の話を丁寧に聴いていくと，友人関係，集団不適応，進路・学業，家庭環境・親子関係，学校不信など様々です。全体像をしっかり捉えながら，相談者に寄り添った相談・支援を行うよう努めています。



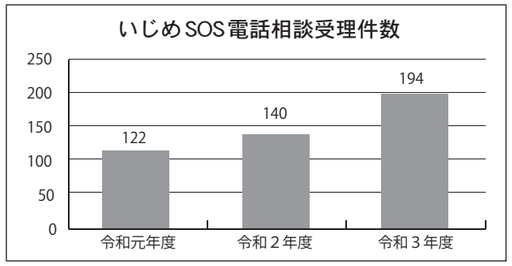
4　支援方法別延べ人数の推移

相談の延べ回数を支援方法別でみると，右上のグラフのようになります。適応指導教室と夜間「学習・進路相談室」のように，通ってくる子どもたちに対人関係の力や学習面などを直接，支援することが教育相談センターの特徴です。また，「来所相談」は昨年度より増加しています。「訪問教育相談」は引きこもり対策ということもあり，アウトリーチ型の支援（出向いて行っての支援）を行っています。家から出られない子どもたちを社会や学校とつなぐ支援に努めています。



5　一般電話もいじめ SOS も増加傾向

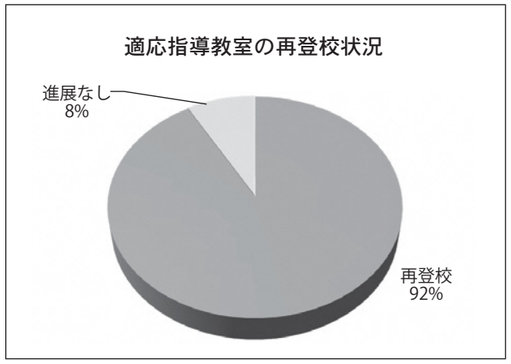
一般電話もいじめSOS電話相談も増加傾向です。不登校以外でもいじめや自殺，SNSにかかわるトラブルなど，青少年に関する心配事が社会ニュースとなっている影響のようです。教育・相談に携わるものとして，子どもたちの声や様子をより丁寧に細やかに見取り，対応するよう心がけております。



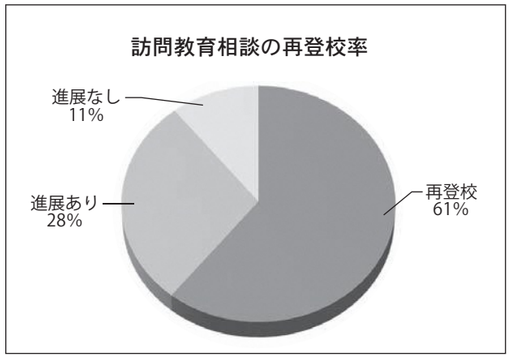
6　令和３年度　再登校調査について

再登校とは，適応指導教室への通室の利用を開始する前後を比較したときに，学校に登校した日が増えていることをいいます。（別室登校や時間外登校も登校に含めます）

昨年度，新潟市全体で133名の通室生（教育相談センター全体の適応指導教室の利用者）がいました。そのうちの92％に当たる122名が再登校を果たしています。教育相談センターの適応指導教室の利用をきっかけに，子どもたちが心のエネルギーを充電し，動き出す機会が増えています。



訪問教育相談の再登校は34人で，全体の61％となりました。また，再登校までいかないまでも教育相談センターや各区教育相談室の適応指導教室につながるなどの進展があったものは16人で28％でした。



最後に

「相談集計」に基づいた経年変化や傾向を把握するとともに，日々の教育相談や適応指導を通し，相談者の悩みを丁寧にお聴きしてまいります。

教育相談センターにかかわることで，困っているお子さんや保護者の皆様に寄り添い，問題の解決に向け，「伴走者」となってまいります。また，当センターが教育のセーフティーネット機関として，関係機関から一層信頼され安心して利用されるよう，自身の相談対応・力量を絶えず見直しながら取り組んでまいります。

困ったことがありましたら，「教育相談センターに相談してみよう」と気軽に御相談ください。

大学・市教委連携教育相談事業

適応指導部主任　**松島　慎一郎**

当センター・各区教育相談室への来所者や職員のために，新潟大学と新潟青陵大学の先生方から御協力をいただいている「大学・市教委連携教育相談事業」は，39年目を迎えました。

今年度も，相談指導，教育相談，事例研究会，講義などで，臨床，医療，特別支援教育と，それぞれ専門的なお立場から御指導や御助言をいただき，来所者への支援に活かしていくように，私たち職員一同，努めてまいります。

～ご協力いただいている大学の先生方～

＜新潟大学＞
- ・教　授　横山　知行 先生
- ・教　授　長澤　正樹 先生
- ・教　授　神村　栄一 先生
- ・教　授　有川　宏幸 先生
- ・准教授　田中　恒彦 先生
- ・准教授　入山満恵子 先生
- ・准教授　佐藤　友哉 先生

＜新潟青陵大学大学院＞
- ・教　授　伊藤真理子 先生
- ・教　授　佐藤　　亨 先生
- ・准教授　浅田　剛正 先生
- ・准教授　小林　　智 先生
- ・助　教　小林　大介 先生

子どもの心に寄り添う訪問教育相談

訪問教育相談部主任　**齊川　　豊**

会話もせずにゲームに夢中，だけど時々相談員の様子をうかがう小３男子。学習が全然分からない，どうしたらよいだろうと困り顔の中１男子。ボードゲームや質問カードで会話を促しても，口を閉ざしたきりの中１女子。少し学校まで行ってみようかな，でも一人では行けないと心配顔の中３男子。

訪問教育相談をしている児童生徒には様々な不安を感じている子がいます。訪問教育相談では，そのような児童生徒に対し，決して無理強いをすることなく，本人の心に寄り添いながら少しずつ少しずつ心のエネルギーがたまるよう支援していきます。

前述の児童生徒に，学習は分かるところから始めてみようと促すと安心した表情になったり，話したくなるまでゆっくり待つよと言うと，顔色が明るくなったりもしました。また，一緒に学校まで歩いていくこともできると話すと，それなら勇気を出してみようかなと応える子もいました。このような個に寄り添った支援方法を学校や家庭とともに考えながら，訪問教育相談を進めるよう努めています。

また，最初から正式な訪問には少し抵抗があるという方には，担当が１～２回家庭を訪問し本人と過ごしてみるという「お試し訪問」制度もあります。

このような訪問教育相談を活用されたい場合は，学校と保護者，本人とでよく御相談されたのち御依頼くださいますようお願いします。

もえぎギャラリー

「絵を描く部屋」で活動しているみなさんの作品を紹介します。

看 板

静 寂

春と梅雨

ネコの周りに集まる子

タロウ

ポチとポチ丸

「絵を描く部屋」は，原則として週１回木曜日の午後１時から午後２時30分まで，教育相談センター内で活動しています。相談活動の一環として「絵を描く部屋」の活動を行うことにより，情緒の安定や活力の回復，社会性の伸長を図ります。絵を描くことが好きな人，ちょっとお話したい人は，センターに連絡をください。

また，令和５年１月27日(金)には，作品展を計画しています。